

## 2013 年度 新年のメッセージ

新年明けましておめでとうございます。

今年は「防災塾・だるま」が発足して8年目になります。18年前に発生した阪神・淡路大震災から10年が経過した頃、首都圏直下に大地震が発生する危険性が高いと警鐘が鳴らされていました。

この神戸市直下に起きた大震災の教訓を改めて思い起こし、事前に防災対策を考えるため「防災情報の共有化と人的ネットワークの構築」を目的に「だるま」が発足したことを、今でも鮮明に記憶しています。

2年前(2011年)に発生した巨大地震・東日本大震災では、巨大津波に襲われた太平洋沿岸の町々の目を疑うような光景を見たり、福島第1原発事故による複合災害の混乱と緊迫した様相を経験して、新たに様々な教訓を与えられました。

「だるま」としていろいろな経験をし、多くの教訓を与えられました。

昨年は、1月に神戸での慰霊式「神戸の集い」に参加し、3月には東北地方太平洋沿岸の被災地を巡り、8月の発足7周年記念シンポジウム、そして10月～12月には「第7回・実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」の開催など、充実した1年間をおくることができました。

この間、運営委員会(役員会)では、毎月1回のペースで様々な検討を行い、3つのワーキンググループ(WG)を立ち上げ、継続的な活動を進め成果を上げております(①養成講座の企画・運営WG、②ホームページの企画・運営WG、③首都圏の減災を考えるWG)。

この他にも適宜、イベント毎に企画・運営委員会を作って、組織的な活動を進めて来ました。

昨年末から「だるま」の発足以来の大きなテーマであった「学校等における防災教育」について、学生世代への防災意識の啓発をテーマとする活動がスタートしました。

これは、東日本大震災で顕在化した大きな課題として、国や都道府県を始め市町村においても、その重要性に目を向けてきたことにもよりますが、特に昨年からは“防災・減災”活動の重要性に気付き、考え方が大きく変わったことによるものと思います。

「自助・共助」の重要性と「公助」の必要性が叫ばれて久しいのですが、このことを前提とした防災・減災活動を個人・地域・社会で相互に共有しながら進める継続的な努力が求められています。

災害大国日本を考えれば「咽喉もと過ぎれば、熱さを忘れる」ことのないよう願わずには居られません。

今年も「防災塾・だるま」の皆さんが相互に協働して活動を重ね、充実した年になるように頑張りましょう！！

2013年元旦

「防災塾・だるま」塾長 荻本 孝久